

駅周辺中心市街地活性化拠点施設整備事業 基本構想 (案)

今日の日常が、明日の思い出になる場所。

日常も、特別な日も。
ここで生まれるたくさんの時間が、
小林の未来を育てていきます。

みんなのまちに、
みんなの舞台を。



CONTENTS

第1章 基本構想について

01 基本構想の概要

- 1. 基本構想策定の背景・・・・・・・・・・・・・2
- 2. 全天候型屋外施設に関するこれまでの経緯・・・・・・・・・・・・・3
- 3. 基本構想の位置づけ・・・・・・・・・・・・・5

02 現況と課題

- 1. 中心市街地における課題・・・・・・・・・・・・・6
- 2. 中央ふれあい広場（駅北側）における現状と課題・・・・・・・・・・・・・7
- 3. 駅南3号街区公園（駅南側）における現状と課題・・・・・・・・・・・・・8
- 4. 課題の整理（小林駅周辺で解決すべき4つの課題）・・・・・・・・・・・・・9

03 求められる市民ニーズ

- 1. 令和7年度まちづくり市民アンケート・・・・・・・・・・・・・10
 - （1）市民アンケート分析・・・・・・・・・・・・・10
 - （2）市民アンケートから見てきたこと・・・・・・・・・・・・・11
- 2. 市民ワークショップ・・・・・・・・・・・・・12
 - （1）市民ワークショップの基本方針・・・・・・・・・・・・・12
 - （2）市民ワークショップからの提言・・・・・・・・・・・・・13
- 3. 市民の声から導く整備の方向性・・・・・・・・・・・・・14

04 基本理念・・・・・・・・・・・・・17

第2章 基本計画について

01 基本方針

- 1. 施設整備の基本的な考え方・・・・・・・・・・・・・18
- 2. 各施設整備の一体的な空間形成の考え方・・・・・・・・・・・・・19
- 3. 施設整備の概要・・・・・・・・・・・・・21
 - （1）中央ふれあい広場（全天候型屋外施設）・・・・・・・・・・・・・21
 - （2）駅南3号街区公園（駅南側）・・・・・・・・・・・・・22

02 概算事業費（中央ふれあい広場及び駅南3号街区公園） ・・・・・・・・・・・・・23

03 期待される効果（施設整備による波及効果）・・・・・・・・・・・・・24

04 ロードマップ・・・・・・・・・・・・・25

Kobayashi
our next stage

1. 基本構想策定の背景

第1章 基本構想について

本市の中心市街地は、小林市の玄関口であるJR古都線小林駅を起点として周辺には小林市地域観光交流センター（KITTO小林）や複合型商業施設（TENAMUビル）が整備され、にぎわいの創出に一定の効果が得られていますが、まちなかへの回遊性が十分ではなく、複数の課題の解消には至っていません。

人口減少・少子高齢化に伴う商業後継者不足、買い物客の郊外への流出などにより、中心市街地（商店街）の活力がますます低下してきている中、中心市街地へにぎわいを取り戻すため、この場所に誰もが日常的に利用できる核となる施設が求められます。

また、これまでのまちづくり市民アンケートでも「安全な公園や遊び場が不足している」「雨の日以外で遊べる施設が少ない」という子育て世代のニーズが高く、来街者に対して歩ける範囲内での回遊性を高めるための仕組みや利便性の向上及び滞在時間を延伸させる仕組みが重要となっています。

さらに、にぎわいの創出に欠かせない屋外イベントは、雨や日差しなどの天候の影響を受けやすく、イベントの確実な開催が見込みにくいことから、雨の日等でも人を分散化させない、かつ日常的に利用できる施設を整備するため、本構想を策定します。



2. 全天候型屋外施設に関するこれまでの経緯

第1章 基本構想について

年 月	内 容
平成23年7月	当時の商工会議所会頭、観光協会及び商店街連合会の各会長から 「中央ふれあい広場の全天候型オープン式多目的ドーム」の陳情が市長に提出される
平成24年3月	小林市議会3月定例会 陳情が採択される
平成28年1月	中心市街地活性化協議会から市長へ意見書が提出される
平成28年4月	「小林市中心市街地活性化基本計画」が策定される。本計画で「中心市街地に市民や小林市に訪れた方々が集える場所を創出していけるような施設整備を願う」との意見書が出される。
以降、商工会議所をはじめとする商工団体から機会あるごとに要望がなされ、小林市議会での一般質問や経済産業委員会においても質問があり、全天候型施設の必要性について協議を重ねる。	
令和7年9月	国の「新しい地方経済・生活環境創生交付金（第2世代交付金）」の事業採択を受け 予算化される

平成28年1月 中心市街地活性化協議会から市長に提出された意見書

中心市街地に求める機能

- ☑ 働く舞台としての中心市街地
- ☑ 賑わいの場としての中心市街地
- ☑ 暮らしの場としての中心市街地



小林市中心市街地活性化基本計画を継承し、
「中心市街地の新たなカタチ」へ

3. 基本構想の位置づけ

第1章 基本構想について

本市では、「中心市街地活性化基本計画」に基づき、小林駅を起点として、小林市地域観光交流センター（KITTO小林）や複合型商業施設（TENAMUビル）が整備し、「働く舞台・賑わいの場・暮らしの場」として中心市街地の活性化を推進してきました。

それらを踏まえた上で、中心市街地の新たなカタチとして恒常的にぎわいの創出による地域経済の循環と地域の持続的发展を図るために基本構想を策定するものです。

第3次小林総合計画（計画期間：2026～2033年）

└ 前期基本計画（計画期間：2026年～2029年）
令和8年3月策定

「みんなでてなむ 笑顔あふれる じょじょんとかとこ 小林市」
（みんなで一緒に 笑顔あふれる とても素晴らしい小林市を創造しましょう。）

戦略的かつ優先的に取り組む
3つのプロジェクト
リーディングプロジェクト

✓ 産業活性化プロジェクト
健幸都市プロジェクト
人口減少対策プロジェクト

基本方針

- ・働き手の確保
- ・生産性の向上
- ・所得の向上
- ・働く場の確保

駅周辺中心市街地活性化
拠点施設整備 基本構想

継承

中心市街地活性化基本計画



整合・連携

小林市都市計画マスタープラン

小林市立地適正化計画

1. 中心市街地における課題

第1章 基本構想について

人口減少・少子高齢化



- ・人口減少・少子高齢化に伴う商業後継者不足により、中心市街地のにぎわいや地域の活力が失われつつあります。
- ・それに伴い、文化・交流の機会も減少しています。

猛暑・気候変動



- ・年々厳しくなる暑さや雨の中で安心して過ごせる屋外の空間が限定的になっています。
- ・イベントの確実な開催が見込めません。

中心市街地の来訪者減少



- ・中心市街地の来訪者も減り、滞在時間が短くなっています。
- ・人と人が交流できる居場所が求められています。

2. 中央ふれあい広場（駅北側）における現状と課題

第1章 基本構想について

現 状

地域の祭り、地域の子どもの遊び場、キッチンカーによるイベント等、各種イベントや地域活動が行われています。

中央ふれあい広場横及び駅横には無料駐車場があり、誰でも自由に施設を利用することができます。

広場は、まちなかにありながら、霧島連山の眺望や自然豊かな環境を創出しています。

課 題

雨天時及び夏季・冬季の酷暑・酷寒時には、**イベントを中止や延期にせざるを得ず**、開催が不確実です。

無料駐車場があるものの、普段からふれあい広場を利用する市民は多くありません。また、市内には**屋外で子どもを遊ばせるスペースが不足**しています。

駅横の好立地でありながら、**利用者は限定的**となっており、**日常では低利用地**です。中心市街地の活性化に寄与する活用がなされていません。



駅から見た中央ふれあい広場



霧島連山側の眺め

3. 駅南3号街区公園（駅南側）における現状と課題

第1章 基本構想について

現 状

公園内にはパーゴラ付きベンチや机、子どもたちのための遊具、トイレが配置されており、保育園や幼稚園等の散歩コースにもなっています。

「水」をテーマとした憩いの場として整備されており、施設内には、湧水の水汲み場や噴水があるため、市内外から湧水を汲みに訪れる人がいます。

課 題

施設の老朽化が進んでいることや、現代の多様なニーズ（イベント利用や安全な子どもの遊び場）への対応が不十分であり、**親子で遊ぶための日常的な使い勝手さや居心地の良さ**に課題があります。

夏は日射しを遮る空間（緑陰や日陰）や雨をしのげる場所が少ないため、施設の持つポテンシャルを活かしきれていません。また、利用者は限定的となっています。



湧水が自噴する駅南3号街区公園



噴水と東屋のある風景

4. 課題の整理 <小林駅周辺で解決すべき4つの課題>

第1章 基本構想について

4つの課題の解決策

課題1 全天候型の交流・活動スペースの不足

雨天時や夏季・冬季の酷暑・酷寒時にも、市民が快適に滞在・活動できる屋外の空間が駅周辺に不足しており、現在は低利用の公共空間となっている。

課題2 日常的な居場所・子育て世代の居場所不足

駅周辺に誰もが気軽に立ち寄り、滞在できる公共空間が少ない。また、中心市街地に子どもを安心して遊ばせ、親同士が交流できる空間が少なく、若年層・子育て世代のまちなかへの呼び込みが不十分である。

課題3 周辺商業への波及効果の弱さ

まちなかを歩く人、散策している人が少なく、駅利用者もまちなかの商店への回遊が少なく、「点から線」「線から面」へのにぎわいの広がりを欠いている。

課題4 南北エリアの分断と連動性の低さ

駅北側と駅南側（駅南3号街区公園）が限定的な利用者になっており、駅周辺全体での回遊性や一体的なにぎわい創出に至っていない。



雨や日射しなどの天候の影響を受けない公共空間の創出が必要。



誰もが日常利用できる核となる施設が必要。



まちなかを歩いて回遊したくなる仕掛けが必要。



駅の南北を一体的に整備し、駅周辺全体でのにぎわいの創出が必要。

1. 令和7年度まちづくり市民アンケート

第1章 基本構想について

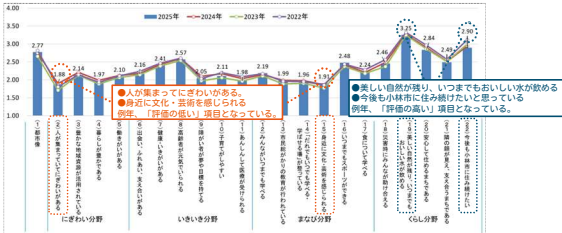
(1) 市民アンケート分析

〇小林市総合計画の基本構想の評価

令和7年度小林市まちづくり市民アンケート（令和8年7月8日公表）において、小林市総合計画の基本構想の目指す状態について、基本構想の評価の平均値を算出したところ、「にぎわい分野（人が集まってにぎわいがある）」及び「まなび分野（身近に文化・芸術を感じられる）」が評価が低い結果となっている。なお、算出にあたり、「分からない」は母数から除外している。

令和7年度市民アンケート調査概要

調査対象	16歳以上の小林市民
抽出方法	無作為抽出（年代については、R2国勢調査の年代比率を参考に按分）
調査方法	調査票を郵送 又は オンライン回答
調査期間	令和8年1月8日（木）～1月30日（金）
配布数	2,000部
回収数	649部
有効回答率	32.5%



1. 令和7年度まちづくり市民アンケート

第1章 基本構想について

(2) 市民アンケートから見てきたこと

- ✔ 人との交流を楽しめる機会や、文化・芸術に日常的に触れられる機会を十分に実感できていない。
- ✔ 美しい自然が残り、いつまでもおいしい水が飲める。
- ✔ 今後も小林市に住み続けたいと思っている。

市民アンケートからの分析（市民の声）

市民は、日常の中で「人との交流（にぎわい）」「多様な活動（文化・芸術）」
「小林らしさ（小林のよさ）」を感じられる暮らしを求めている。

人との交流

多様な活動の
広がり

小林らしさ

2. 市民ワークショップ

第1章 基本構想について

(1) 市民ワークショップの基本方針

本市と連携協定を締結している東京大学先端科学技術研究センターの近藤早映准教授の助言を受け、小林商工会議所・商工会、市民団体、市民公募等で構成する13名の市民ワークショップ会議を開催し、先進地視察やワークショップからの学びを得て、小林駅周辺の新たな拠点づくりに向けてワークショップの基本的方針を定めました。

市民ワークショップの基本方針

小林市で目指すべき方向は、単に「屋根付き施設を作る」ことなく、

基本方針1

日常使いできる柔軟な拠点をつくる

基本方針2

既存の店やまちなかへつなぐ“第2・第3の立ち寄り先”を育てる

基本方針3

霧島連山・水・木・人の温かさを小林らしさとして空間化する

2. 市民ワークショップ

第1章 基本構想について

(2) 市民ワークショップからの提言

提言

みんなの校庭。活動がひらかれ、重なり、関わりのきっかけが生まれる駅前

だれもが主役になれる場所
こばやしのLa Scène（舞台）へ

歩いて創るまちの未来

内容

誰もがチャレンジしたいことに挑戦したり、その活動に触れることで、関わりが自然に生まれる学校の校庭のような居場所。

小林駅周辺全体を一つの大きな舞台と捉え、まち全体で交流やにぎわい、文化など多様な活動が展開され、誰もが参加でき、役割を持てる場所。

ふれあい広場を拠点に、歩いて巡りたくなる回遊を生み出し、駅を拠点に人や地域資源をつなぐことで、新たな回遊と交流。活動が生まれる場所。

居場所

挑戦

人の「想い」を育む

舞台

活躍

人の「活躍」を育む

回遊

つながり

まちとの「つながり」を育む

結論

単なるイベント空間としてだけでなく「イベントがない日が主役」となる施設で、日常的な滞在や交流を生み、人とまちをつなぐ「新たな起点（スタート地点）」となる場所を。

3. 市民の声から導く整備の方向性

第1章 基本構想について

市民の声

世代を超えて
交流できる場
所がほしい



音楽や人の
声が心地よく
響く場所
がほしい



自然や人の
優しさを感じ
られる場所
がほしい



気軽に立ち
寄ってゆっく
り過ごせる場
所がほしい



市民の活動や発
表ができる舞台
がほしい



駅周辺だけで
なく、まちな
かを歩いて楽
しみたい



飲食や体験を
通じて味わい
楽しむ場所が
ほしい



整備の方向性

交 流

- ・世代や立場を超えてつながる場
- ・人との出会いが生まれる



活動・活躍

- ・多様な活動が生まれ育つ場
- ・子どもや若者が活躍できる場



居場所・日常利用

- ・日常的に立ち寄り、過ごせる場
- ・雨や暑さを気にせず心地よく過ごせる場



文化・舞台

- ・文化や芸術に触れられる機会を作る場
- ・市民の活動や発表ができる場

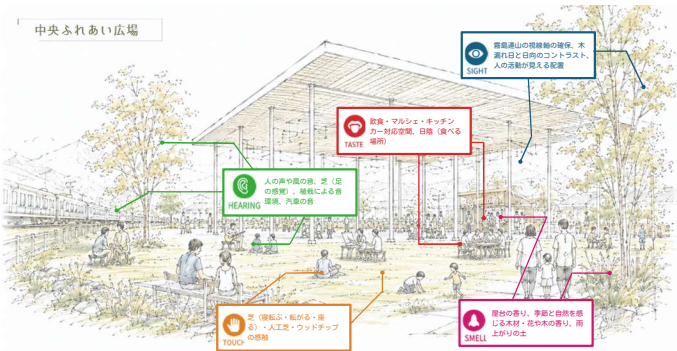


にぎわい・回遊

- ・まちなかへ広がる回遊のきっかけ
- ・お店や飲食店に自然とつながる流れをつくる

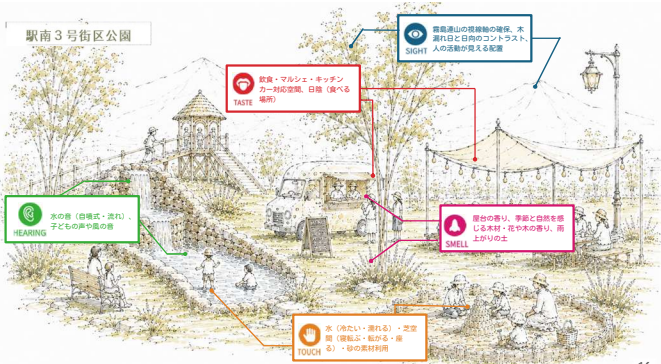


中央ふれあい広場



※本イラストは施設整備後の活動や空間利用のイメージを示したものであり、規模・配置等を示すものではありません。

駅南3号街区公園



※本イラストは施設整備後の活動や空間利用のイメージを示したものであり、規模・配置等を示すものではありません。

基本理念とコンセプト

第1章 基本構想について

市民アンケートや市民ワークショップから見てきた「交流」「活動・活躍」「居場所・日常利用」「文化・舞台」「にぎわい・回遊」への思いを踏まえ、本構想では、「**五感を活かした空間づくり**」を基本とします。市民一人ひとりが主役となり、日常的な活動や交流が公園からまちなかへ広がる駅周辺の実現を目指します。

この考えを本構想の基本理念とコンセプトの基礎として、次のように定めます。

基本理念

今日の日常が、明日の思い出になる場所。

何気ない日常から特別な日まで、一人ひとりの暮らしに思い出が積み重なるような場所を目指します。

コンセプト

五感をとおして活動と文化が広がる拠点 — 公園からまちなかへ にぎわいをつなぐ —

五感をとおした多様な体験や交流を通じて、人が集い、公園からまちなかへと人の流れやにぎわいをつないでいく拠点を目指します。

「視覚・聴覚・嗅覚・触覚・味覚の

五感を活かした空間づくり」



施設整備では、人の行動に着目した空間を創出します。

そのために、五感を活かした多様な体験を取り入れます。

地域の自然や素材を取り入れ、心地よい音環境や季節の変化を感じられる空間を整え、日常の中で五感が豊かに働き、「集まりたくなる」「滞在したくなる」「活動したくなる」「歩きたくなる」などの体験を段階的に生み出します。

この考え方のもと、本拠点はあらゆる世代が、それぞれの目的で訪れ、人や自然、地域との関わりが生まれる空間を目指します。

本構想では、中央ふれあい広場と駅南3号街区公園がそれぞれの役割を分担しながら一体的に機能する空間として整備します。中央ふれあい広場に整備する**全天候型屋外施設は、日常利用、交流やにぎわい、活動の拠点**として位置づけ、一方、**駅南3号街区公園は、「水」をテーマとした主に未就学児向けの遊び場とした体験の場**を創出します。両施設は、いずれも五感を活かした空間整備を基本としながら、駅を挟みながらも人の流れがまちなかへ交流・活動が広がる一連の空間を目指します。

❖方針1 多様な活動を支える空間形成

固定的な利用に限定せず、日常の「居場所」から非日常の「イベント」まで時間帯や季節に応じて柔軟に活用できる空間を形成します。

❖方針2 施設の連携による回遊性の向上

中央ふれあい広場と駅南3号街区公園がそれぞれの役割を補完し合い、駅周辺全体を一つの広場として機能させ、まちなかへの回遊性を高めます。

❖方針3 五感を育む遊び・体験空間の創出

「水」と「緑」を活かし、子どもたちが安心・安全に五感を育む遊び・体験空間を創出します。

駅周辺全体の空間利用イメージ

駅周辺全体を一体的な公共空間として捉えます。各施設が役割を分担しながら、人の活動、交流や回遊が駅周辺全体へ広がる空間利用イメージを示します。

- 1 にぎわい創出エリア**（交流・にぎわい創出の拠点）
日常的な憩いや交流の場に加え、イベントや文化活動、多様な市民活動を育み、世代を超えた交流とまちなかのにぎわいを育む。

集う・憩う・遊ぶ・楽しむ・出会う・発表

- 2 「水」をテーマとした子どもの遊び場**
（水と遊び・学びの拠点）
地域の水資源を生かし、水と親しむ憩いの場に加え、自然とのふれあいや学びを通じて、世代を超えた交流と安らぎを育む。

遊ぶ・触れる・学ぶ・見守る・休む

- 3 観光交流エリア**（観光・地域交流の拠点）
観光情報の発信や案内機能に加え、地域資源のや特産品の魅力を発信し、人・地域・まちなかをつなぐ交流を通じてまちなかの回遊とにぎわいを育む。

知る・訪れる・つながる・交流

- 4 商業エリア**（暮らし・仕事・交流を支える拠点）
日常の買い物を支える商業機能に加えて、交流やビジネス支援、人材育成、居住機能が集積し、多様な世代の暮らしと活動を支える。

暮らす・買う・働く・学ぶ・相談・交流

- 5 まちなか商店街エリア**（歩いて楽しむ回遊の拠点）
商店街ならではの買い物や飲食に加え、地域の魅力や人との交流を楽しみながら、まちなかの回遊とにぎわいを促進する。

歩く・めぐる・買う・食べる・出会う

駅周辺回遊エリア

→ にぎわいや活動の広がり
→ 駅周辺への広がり



3. 施設整備の概要

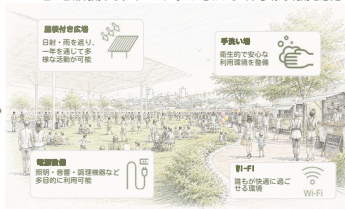
第2章 基本計画について

(1) 中央ふれあい広場（全天候型屋外施設）

駅周辺の交流・にぎわいの中心となる拠点

- ① 施設整備の区分：新設
- ② 場所：宮崎県小林市細野1823番地5
- ③ 敷地面積：約6,664㎡
- ④ 延べ床面積：全天候型屋根付き施設約1,000㎡
(50m×20m)
- ⑤ 主要設備：可動式ステージ、照明・音響設備、Wi-Fi、ベンチ、手洗い場

(現況)



日常

学生の学習、休憩、子どもの雨天時の遊び場、
軽運動、ウォーキング

イベント

イベント マルシェ、音楽、地域まつり、パ
ブリックビューイング

防災

一時防災避難所としての機能

(整備後イメージ)

365日の日常利用から、イベント時のにぎわいまで、多様な利用を想定

3. 施設整備の概要

第2章 基本計画について

(2) 駅南3号街区公園（駅南側）

水や緑に囲まれ、親子が日常的に集い、
安心して過ごせる憩いの場

- ①施設整備の区分：改修
- ②場所：宮崎県小林市駅南294番地
- ③敷地面積：約11,580㎡
- ④主要設備：照明設備、電源、芝生広場

(現況)



日常 「水」・「緑」をテーマとして親子の憩いの場

イベント イベント キッチンカー出店、中央ふれあい広場
と連動したイベント会場、イルミネーション

(整備後イメージ) 親子が安心して過ごせる日常利用を想定



総事業費 594,000,000円（取引に係る消費税及び地方消費税相当額を含む）

※概算事業費であり、基本設計・実施設計により変動する場合があります。

地域未来交付金（国庫支出金）	297,000,000円
地方債	267,300,000円
基金（公共施設整備基金）	6,200,000円
一般財源	23,500,000円

中央ふれあい広場

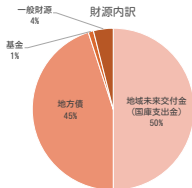
＜事業内容＞

- ・中央ふれあい広場実施設計
- ・中央ふれあい広場 全天候型屋外施設 建設整備
 - 建築主体工事
 - 電気設備工事（照明設備・コンセント設置）
 - 給排水設備工事
 - 機械設備工事（音響設備）
 - 外構工事
 - その他附帯設備

駅南3号街区公園

＜事業内容＞

- ・駅南3号街区公園実施設計
 - 照明設備、電気供給システム、平板ブロック改修工事、東屋改修・新設工事、植栽・植樹一部撤去工事、張芝工事（野芝）、公衆トイレ撤去、ベンチ設置、自噴式小噴水



期待される効果（施設整備による波及効果）

第2章 基本計画について



本施設を起点として、駅周辺のにぎわい創出や回遊性の向上を図るとともに、その効果を商業・観光・交流へ波及させ、地域経済の活性化につなげることをめざします。

定量的効果（数値化）	定性的効果（地域・暮らしの変化）	評価指標
利用効果（人が集まる） - 公園・駅周辺施設利用者数の増加 - イベント参加者の増加 - 滞在時間の延伸	にぎわいの創出 - 日常的な交流機会の創出 - 多様な市民活動・イベントの展開 - 文化・芸術の発信基地 - 滞在したくなる空間形成	- 年間利用者数 - イベント開催回数 - 年間イベント参加者数 - 駅周辺店舗の売上高 - 利用者満足度
経済効果（消費が生まれる） - 駅周辺消費額の拡大 - 駅周辺店舗の売上向上 - マルシェ売上増加 - 新規出店需要の創出 - 市内消費額の増加	子育て環境 - 子どもの屋外活動機会の増加 - 親子が日常的に集える居場所形成 - 子育て世帯同士の交流促進 - 子育て世帯の満足度向上	
地域経済への波及効果 （まちが変わる） - 民間事業者の投資判断促進 - 空き店舗活用 - 雇用創出機会の増加 - 事業承継・新規創業の増加 - 駅周辺再開発促進	地域コミュニティ - 地域コミュニティ形成 - 市民活動の活性化 - 多世代交流の促進 - 地域への愛着・誇りの醸成	

	R8 年度 (2026 年度)	R9 年度 (2027 年度)	R10 年度以降 (2028 年度以降)
ハード (空間をつくる) 安全・快適で誰もが使いやすい空間を整えます。	基本構想・計画・設計 - 市民ニーズの把握 - 市民ワークショップ意見の整理 - パブリックコメント - コンセプト・導入機能の検討 - 概算事業費の算出 - デザインビルド委託契約	整備工事 - 建築工事・外構整備 - 植栽・サイン等の整備 - 駅南3号街区公園整備 - 利用運用ルール整理 - 広報・情報発信の強化 - オープニングイベント開催	供用開始 持続的な運営・リニューアル - 施設運営の協議・供用開始 - 周辺施設との連携強化 - 次世代につなぐ環境整備 - 運営のための自主財源確保のための協議
ソフト (活動を育てる) 市民・事業者・行政が一緒に使い方を育て、まちの価値を高めます。	市民とのビジョン共有 - 市民ワークショップの開催 - 社会実験の実施（小さく試す） - 情報発信・共感の輪づくり - 施設利用者との意見交換	使い方・仕組みの検討 - 管理運営体制の検討 - 民間事業者・団体との連携 - プレイベント・プログラム企画 - ボランティア・担い手の育成 - 周辺店舗・商店街との連携 - 地域プロモーションの展開	日常のにぎわいを育てる - 定番イベント・文化活動の開始 - マルシェ・音楽・スポーツ等 - 子ども・若者の定着支援 - 日常利用の定着支援
目指す未来の姿	みんなで未来を描く 	快適な空間が整う 	活動が生まれ、広がる 

令和8年8月策定

発行：小林市 経済建設部 商工観光課
〒886-8501 宮崎県小林市細野300番地
TEL：0984-23-1174 FAX：0984-23-1197
E-mail：k_syoukan@city.kobayashi.lg.jp

